

地域課題解消の卒業制作作品

青山製図専門学校 東京

多くの建築家やデザイナーを輩出し、建築・インテリア・スペースデザインに特化した。学びに定評のある青山製図専門学校（東京都渋谷区）。同校の学生が3月17日、千葉県いすみ市役所を訪れ、卒業制作優秀作品賞を受賞した作品「ISO BASE」を発表した。

プレゼンテーションを行ったのは、訪問当時、建築インテリア工学科の3年次だった網谷ふありさん（千葉県立千



磯根の荒波を象徴する3次曲面の屋根と開放的な空間が特色

設計した施設の模型を見せながらのプレゼンテーションに熱が入る

葉南高等学校出身）、川田廉士さん（埼玉県立所沢中央高等学校出身）、柴崎小春さん（神奈川県立荏田高等学校出身）の3人で構成される「網谷チーム」だ。

3人は、漁師数の減少による地域の魅力が低下したり、県外の人に魅力が伝わりにくかったりするなど、いすみ市が抱える課題に着目し、「地域住民から観光客へ海の恵みを共有するまちづくり」をテーマとする複合施設である「ISO BASE」を大原漁港の一角に設置する計画を提案した。

「ISO BASE」内には、鮮魚店や船宿、釣具レンタル店のほか、浜焼き体験ができるフードエリア、いすみ市大原名物・蛸飯のカップ飯を販売するエリアなどをレイアウトした。

さらに、港で採れた貝殻の

ペイントや漁業網を使用した編み物のワークショップに加える施設としてイメージされているのが特徴だ。

「港の朝市」も展開。「食べる」「観る」「体験する」「買う」の四つの体験を通じて地域住民と観光客が交流し、いすみ市の魅力発信の起点となる施設としてイメージされているのが特徴だ。

20人を前に、15分間で発表に臨んだ。その後、関係者によるフィードバックが行われ、

「カップタコ飯は、具材をトッピングする手づくり体験ができるとおもしろいのではないかな」など、漁港周辺や地域

の町おこしに関するアイデアが続出した。「いすみ市の魅力を伝え、地域活性化につなげたい」という想いを地域と学生が共有することとなり、双方にとって有意義な時間となったようだ。

網谷チームは、小路正和いすみ市長をはじめ、市議会議長や漁業協同組合関係者など約